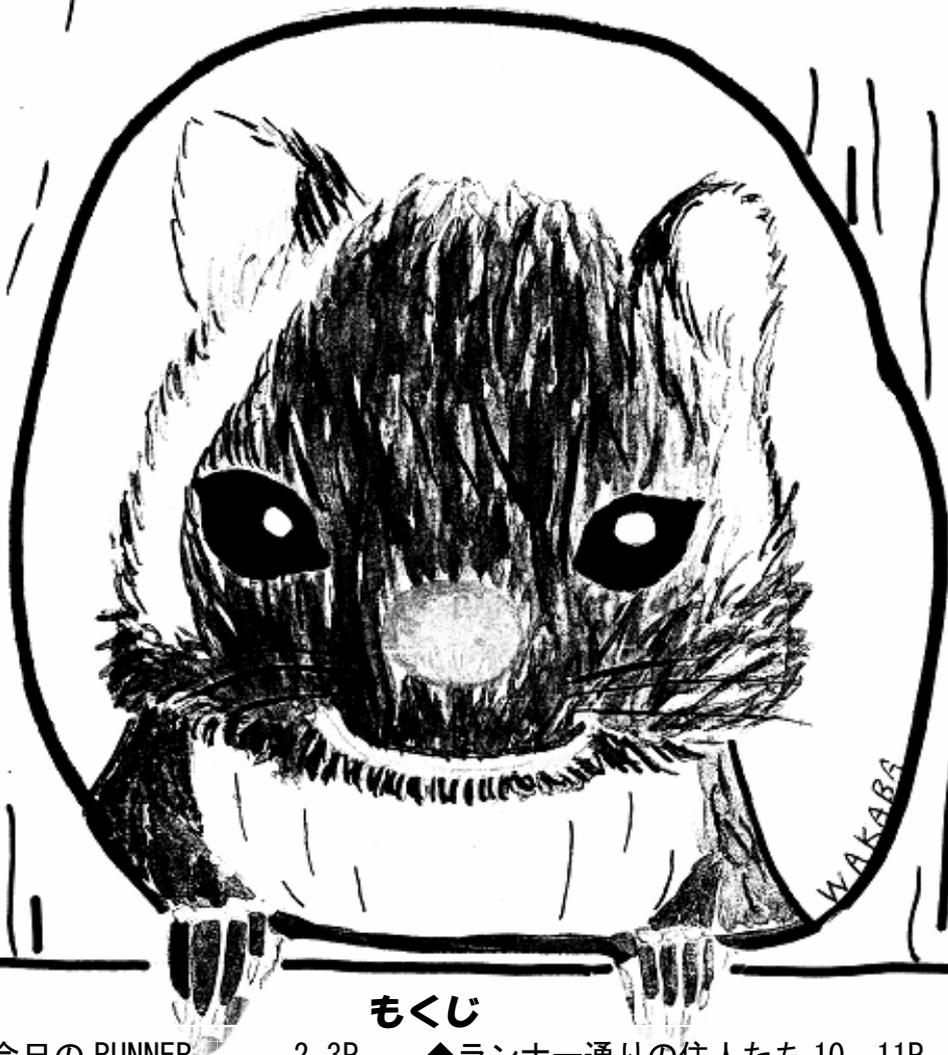




# RUNNER



## もくじ

◆今日の RUNNER	2, 3P	◆ランナー通りの住人たち	10, 11P
◆M プロジェクト	4, 5P	◆ムクドリ日記	
◆活動の現場から			12, 13P
◆海ゴミ	6P	◆投稿記事	14P
◆シンポジウム	7P	◆HELLO!! VOLUNTEERS☆	15P
◆ワークショップ	8, 9P	◆らんちゃん便り	16, 17P

### RUNNER とは??

この会報のタイトル“RUNNER”には3つの願いが込められています。

☆救護の会が RUNNER のようにどんな困難も乗り越えて進んでいけるように

☆動物たちが元気に大空に飛び立ち、走り続けていけるように

☆らんちゃんが天国で元気に走り回っていますように



# 今日のRUNNER



第四走者：ムササビ

ここでは保全センターに運び込まれた傷病鳥獣について保護記録やエピソードを交えてご紹介します。

## 空飛ぶ座布団

夕暮れ時の森の中、頭の上を座布団が空を飛ぶ！  
そんな経験したことがありますか。今回の主役はバンドリ、ヨブスマなど様々な別名を持つ、空飛ぶ座布団—ムササビです。



11月13日 部屋の端っこで警戒

## 仲間が次々と…

今回紹介するムササビは一頭だけですが、同時期に他にも二頭、計三頭が保全センターに保護されました。しかもそれぞれ別の場所からでした。職員さんによると、短期間にこんなばらばらにムササビが保護されるのは珍しいことだそうです。他の二頭は残念ながら死んでしまいましたが、この一頭は無事に野生へ帰ることができました。



11月13日 他のムササビと  
大きさ比べ(向かって右が655)

## 保護個体データ

受付番号：080655

種類：ムササビ ♂ (幼獣)

保護年月日：2008年11月12日

保護場所：箱根町仙石原

状態：元気なし、下切歯傾いている、胸椎圧迫骨折

後躯麻痺 (前足だけでいざって歩くのみ)

(体重：650g)

転帰：2008年12月23日 野生復帰

(体重：700g)

## 回復までの道のり

2008年11月12日運ばれた当時、彼はうまく歩行もできず、排尿もできませんでした。後躯麻痺があったので、翌日動物病院でレントゲン検査を受けました。結果は胸椎圧迫骨折。重い症状でした。このまま排尿ができない状態が続けば命も危ない、そんな危険な状態で職員さんは安楽死も考えていました。しかし毎日膀胱穿刺で尿採取をし、命をつないでいると、23日には自分で排尿を出来るようになりました。命の危機を脱出した彼はみるみると回復し、翌日には歩行状態もよくなりました。12月1日にはフライングケージ(A小屋)に移動し、リハビリを続けました。



A小屋の様子

○ 図鑑 ○ NO.4

・ムササビ *Petaurista leucogenys*

齧歯目リス科

日本固有種。平地から山地の森林に生息する。森を背にした大木の残る社寺林ではわりと観察されやすい。夜行性で樹上活動し、あしの間にある被膜を広げて、木から木へ滑空して移動する。巣は大木の樹洞につくり、日中はその中で休息している。巣箱も利用する。ほぼ完全な植物食で木の葉、芽、花、果実、種子などを食べる。

バンドリ、ヨブスマなどの別名を持つ。

メスは約1 haのなわばりを持つが、オスは持たない。繁殖は年に二回で、冬と初夏に交尾し、春と秋の二回、一度に1～4仔、通常2仔を産む。妊娠期間は平均74日。グルグルと鳴く。木登りのうまいテンと夜行性のフクロウが天敵である。

\*参考：・小宮輝之『フィールドベスト図鑑 12 日本の哺乳類』（株式会社 学習研究社、2003）  
・安部永『日本の哺乳類』（東海大学出版会、1994）

そして12月23日夕方、保護場所である箱根町仙石原で放野することになりました。放野には職員さんの他に、ボランティアさんなど10人が駆けつけました。すぐ寝床が見つからなかったときのために、巣箱も近くにくり付けました。そして放野—ムササビは近くの枝の上でこちらをじっと見つめた後、人々に見送られながら雑木林の奥に消えていきました。

## 連係プレー

今回のムササビの保護では、野生動物救護活動における連係プレーの大切さを痛感しました。

初めに保全センターに保護連絡があった時、連絡者は保全センターへは遠くて行けないということでした。そこで保全センターの職員さんは、箱根の仙石原で野生鳥獣クリニックを開設している獣医師の柏木さんに搬送を頼みました。柏木さんは快く引き受けてくださり、無事にムササビは保

全センターに保護されたのです。

私達が行う救護活動は、野生動物の世話のみにとどまりません。予防も含めて保護・搬送と広範囲に渡り、傷病鳥獣のことを知っているからこそ出来ることがあると思います。

皆さんも自分に出来ること、考えてみませんか。

## 回復記録（2008年）

- 11/14 レントゲンにより胸椎圧迫骨折がわかる  
排尿困難→膀胱穿刺で尿採取
- 11/16 排尿困難→膀胱穿刺で尿採取
- |
- 11/22
- 11/23 排尿困難→膀胱穿刺で尿採取  
下腹部刺激時に自力排尿
- 11/24 自力排尿
- 11/25 歩行状態良好
- 12/01 尿検査（肝機能に問題？）
- 12/06 どんぐりをよく食べる  
果物は柿、リンゴが好き
- 12/11 600g A小屋に移動
- 12/12 果物はほぼ完食  
どんぐりがあまり減っていない
- 12/23 700g 放野

※膀胱穿刺…腹部から膀胱へ注射器を刺すこと

# M (猛禽) プロジェクト

～オオタカ (ディラン・マッケイ) の巻～

猛禽類は、なんらかのトラブルで救護され、獣医学的な治療を施してもその間狭いケージに閉じ込めておくと、飛ぶための力である、筋力・体力・持久力が落ちて、たとえ放鳥しても厳しい野生の世界で生き残る事ができません。

そのために、猛禽類のリハビリでは日本の伝統技術である放鷹術を取り入れ可能な限りストレスをかけずに効率的なりハビリによる早期野生復帰を組織的に行うリハビリチームが必要とされます。

これが私たちが行っているMプロジェクトです。

諸事情により暮れも押し迫った頃、私としては 5 羽目となるオオタカをリハビリのため短期預かりをする。ディラン・マッケイ (以下 D) と命名。軽い気持ちで預かった D でしたが、片目というハンディと療養のためとはいえ 1 年近く閉じ込められていた生活で性格はかなり荒れており、10 年以上続けてきた私の猛禽のリハビリの中で、最大の苦戦になるのでした。

## ディラン・マッケイ

- ・オオタカ ♀ 800 g
- ・救護日 2007・4・18 NO. 070078
- ・衰弱、幼羽が残る若鳥
- ・右目がおかしい (眼球・瞳孔ともに萎縮、先天的なものと思われる)
- ・救護された原因は、獲物がうまく取れずに衰弱したと思われるので、餌を食べさせて順調に回復。が、その間に羽根を痛め、換羽で新しい羽根が生え揃うのを待つ事へ
- ・夏が終わり、換羽も無事終えリハビリの訓練を待つばかり・・・そして



ディラン・マッケイ

## 第1章 拳 (手) に据える

真っ暗な部屋の中で、拳に据え私や私の動きに馴れさせる。馴れて来たら、少しづつ明かりを入れ、明るい所でも暴れない様にして行く。人間の手から、直接エサを食べてくれるかが一つの壁。

■2007 12/19 847.7 g

この日から 6 日間は絶食。一日平均 20 g 減り続け 12/25 には 738.3 g。この間毎日、1 時間以上暗い部屋にこもりエサを見せて、反応を見る。25 日にやっと手から直接エサを食べさせてくれる。次の日からは、夕方の薄暗い庭での訓練となる。

## 第2章 短い渡り 挫折

止まり木から拳に向かって飛んで来させる。

■12/28～1/1

庭で距離 5m を 10 回ほど手に向かって飛んで来てくれる。最初は躊躇しつつも、わりと簡単に来る。

これで次の段階、道路で飛ばす事へ。家の前の道路は、あまり車が通らず距離が伸ばせる。近所迷惑だが、訓練中はいつも利用させてもらう。本当は、公園等広い場所が理想だが、毎日の事なので移動が大変。

■2008 1/2 742.3 g

道路へ。1m だと簡単に来る。それが 1.5m になると暴走\*1 する。何に原因があるのか原因不明。

\* 1 暴走

飛び立った瞬間は、私の拳をめざしているが、その後気が変わり何処に飛んで行くかわからない状態をいう。

Dの片目が見えないという事は、Dにとっても私にとってもかなりのハンディである。

見えていない右目の方では、動きに対して無反応だが、その分見えている左目で右目の分までカバーするため動作確認に時間が長くかかる。非常に神経質になり飛んでいても右側の動きには敏感になっていた。

オオタカが神経質な鳥だということは承知しているが、いつも以上に自分の動きに気を使う。

#### ■1/14 644. 5g

かなり体重を落として 5mを 10 回。寒さのため体重管理\*2が大変。次の日から反応が悪く飛ばなくなってしまう。

#### \*2 体重管理

訓練も後半になると、飛ぶためのベスト体重が見えて来る。そうすると、天気予報を見ながら、冷え込む様なら、ちょっと多めにエサをあげたりして調整する。

訓練の最初の頃だと、手探りで体重を落としているので、経験と何より注意深く体調の観察をすることが必要。

#### ■1/17 647. 1g

あまりの反応の悪さと厳しい寒さ、嫌な感じがして、Dの体調も考え訓練は一時中断を決意。

### 第3章 春ふたたび

距離を少しずつ伸ばしながら、飛んでいる姿勢・羽根の使い方・息つきなどチェック。気温の落ち着いた頃、中断していた訓練を最初から再開。

#### ■3/16~24

9日間の絶食。その間、暗い部屋の中。3/25から庭に。

#### ■4/1 785. 3g

2mを5回。ためらいもなく来る。

#### ■4/4 763. 0g

1. 5mは素直に来るが 1. 7mになると暴走。4/10まで試行錯誤。

#### ■4/11 735. 1g

初めて2mを2回飛ぶ

#### ■4/12 731. 5g

5m、いい感じ

#### ■4/15 731. 9g

8mまで

#### ■4/22 726. 5g

10mまで10往復

#### ■4/23 730. 8g

近所の屋根に大暴走

#### ■4/25 723. 2g

Dに集中力がない

#### ■4/26 736. 5g

隣の修理工場に暴走

家族に手伝ってもらい回収。この時以来、家族に補助として毎回手伝ってもらう。

#### ■5/1 723. 7g

1. 6mを14回

#### ■5/6 674. 6g

20mを13回

#### ■5/7 672. 0g

25mを10回

#### ■5/11 688. 5g

30mを10回

この日から、これ以上の距離は危なくて伸ばせないものの回数はどんどん増えてくる。

#### ■5/16 677. 5g

最終的に30mを25往復になり飛行訓練は終了とする。5/21までは、食べたいだけ食べさせ、羽根のチェックをし放鳥の準備を整える。

### 第4章 そして、空へ！！

#### ■5/21 934. 2g

みんなが見守る中、Dは保護された場所で放され、力強く羽ばたいて行った。



片目が不自由なDにとって生き延びるのは大変な事だと思います。

それでも、少しの可能性を信じて自由に空を飛んでほしい・・・野生のものは野生に！

紙面の都合で、詳しくは書けませんでした。訓練は雨の日以外、毎日です。毎日最低でも1時間以上の時間がかかります。本当に根気のいる作業です。

ちなみに12/29から1/13までノスリも預かり、この子も並行して飛ばしています。

次回のMプロは、誰を紹介しましょうか

お楽しみに \*\*

## 活動の現場から

このコーナーでは普及啓発動などに参加したボランティアさんが  
その体験をもとにレポートしてくれています。

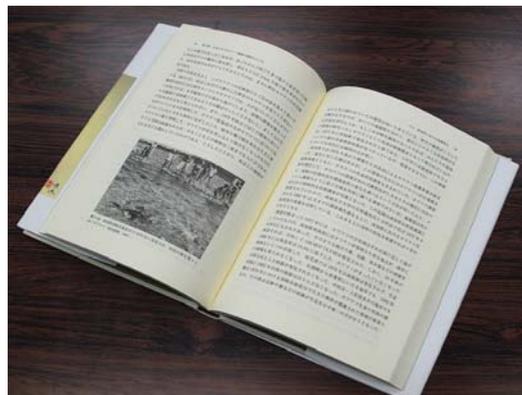
### ◆第8回自然環境シンポジウム◆

2月15日(日)に神奈川県立生命の星・地球博物館ミュージアムシアターで、第8回自然環境シンポジウムが開催されました。主催酒匂川水系の環境を考える会で、野生動物救護の会も小田原市、神奈川新聞社、(財)日本自然保護協会、(社)神奈川県獣医師会とともに後援しました。今回のテーマは「変わりゆく野生動物たちと私たちとの幸せな共存」でお二人の先生が講演されました。定員300名の会場をほぼ埋めつくす程の盛況ぶりは、最初に講演された東京農業大学農学部バイオセラピー学科野生動物学研究室の安藤元一先生も驚かれる程でした。

安藤先生は「変わりゆく神奈川県の哺乳類について」、県内で減っている動物や増えている動物のお話をされました。今は生息していないオオカミやカワウソのこと、タヌキの生息範囲の変化など興味深い内容で中でも特に伊東市や小田原市で最近確認されている外来種のハリネズミの分布拡大要因に、人も関係しているというのが印象的でした。ハリネズミは大人しく簡単に捕まえられるからだそうです。

休憩をはさみ、次はいつもお世話になっている自然環境保全センターの加藤千晴先生の登場です。「傷つく野生動物からのメッセージ」と題し、救護されてくる動物たちのスライドを見ながらのお話でした。スライドには、自然保護区で狩猟されてしまったシカや、ビルの窓ガラスに衝突したり、ネコに襲われたりした野鳥などが映し出されました。景色が反射してしまう窓には、猛禽類のシルエットのシールを貼って衝突を防いだり、ネコを室内飼いにしたりで野鳥への被害をなくすことが出来るなど、私たちの生活を見直すことの重要性を感じるものでした。

貴重な講演を聞くことができ、あっという間の3時間でした。野生動物と私たちの関係がより良いものになるにはどうしたらよいか、参加者の皆さんも考えるきっかけとなったのではないのでしょうか。



安藤元一先生が書かれた本です

## ◆「海ゴミ GO ME！」展◆

釣り針、釣り糸、プラスチック片など私達の生活から排出されたゴミで身近の野生動物が傷ついている現実を訴えた「海ゴミ・GO ME！」展が2/4～3/9まで“よこはま動物園ズーラシア”のコロコロッジで開催されました。神奈川県内で野生動物救護の活動をしている3団体（NPO法人野生動物救護獣医師会神奈川支部、かながわ野生動物サポートネットワーク、NPO法人野生動物救護の会）の主催によるものです。

昨年5月と11月に三浦の毘沙門海岸で実施されたゴミ拾い（野鳥の会神奈川支部主催）に参加し、〔海ゴミ〕の現状を知ることから始まり、実際に持ち帰った〔海ゴミ〕の展示、それらで傷ついた野生動物の写真パネル、展示を見ながら回答を探すクイズなどを行いました。当会からもたくさんの会員の方々が準備段階から積極的に参加して下さい、展示物の作成・搬送運搬・展示場の設営・来場者への普及啓発など大活躍でした！

中心となり活躍して下さいった遊佐さんの感想です。

最初は気楽な気持ちでズーラシア見学を兼ねた打合せに参加しましたが、打合せの回数を重ね、茅ヶ崎の「(財) かながわ海岸美化財団」へ海岸清掃の状況を写した展示用写真パネルを借りに行く頃には自分の中で「海ゴミ・GO ME！」展が具体的にイメージされてきました。

2月3日の展示設営は、初めて動物園の裏の職員通路、まるでジュラシックパークのような迷路と動物脱走防止のための大きな鉄製の扉（G3、G8）に戸惑いながらコロコロッジにたどり着くという楽しい経験もしながら一日がかりで行いました。舞台上をはじめ室内にいろいろと展示設営が出来上がると見学者がたくさん集まってくれることを願うばかりでした。幸い土・日曜日は大勢の見学者が訪れてくれたことを聞きホッと、祝日の11日には来場者への説明担当として参加し、子供連れの方々が大量見学に来てくれるのを目のあたりにして嬉しさもひとしおでした。またいろいろな方々と話をし、感想を聞くことが出来たことは自分の勉強にもなり大変良かったと思います。

動物園ということもあり、いろいろな動物を見てきた後でこのような展示を見ることで、ゴミがいかに野生動物を傷つけているかを知り、そして野生動物への思いも違ってくるのではないのでしょうか？



会場の様子

海で回収したゴミの種類が多さ、釣り糸が絡まったウミネコなど如何に私達が日常的にげなく捨てているかを視覚に訴えることで皆さんにことの重要さを解ってもらえたのではないのでしょうか？

展示も好評で次回は3/24～4/19まで横浜市立野毛山動物園での展示も予定されています。

## ◆学生のための野生動物救護国際ワークショップ◆

雪の降る今年の2月27日に日本獣医生命科学大学で「学生のための野生動物救護国際ワークショップ」が開かれました。学生が現在および将来どのような形で野生動物救護に関われるかというテーマで5人の方が非常に中身の濃い講演をされました。

### ○Mr. Curt Clumpner



- ・ IBRRC (International Bird Rescue Research Center) の米国北西地域代表で 1981 年から野生生物リハビリテーションに携わり、また IFAW (国際動物福祉基金) の ER チームの一員として世界各地の石油流出事故の現場で救護活動を行っている。
- ・ 講演内容  
「Working in Wildlife Rehabilitation: A World of Opportunities」  
世界の野生動物救護のネットワークについて

### ○Ms. Barbara Callahan



- ・ アラスカの救護施設でのボランティアをきっかけに、IFAW 油汚染課の緊急救護責任者、IBRRC 救護部門ディレクターとして活躍するとともに普及・啓発活動に力を注いでいる。
- ・ 講演内容  
「Wildlife Rehabilitation as a Career Choice」  
野生動物救護へのいろいろな関わり方について

### ○齊藤 慶輔氏



- ・ 環境省 「釧路湿原野生生物保護センター内 猛禽医学研究所」を活動の拠点に絶滅の危機に瀕した猛禽類の保護を中心に取り組んでいる。
- ・ 講演内容  
「北海道における稀少猛禽類の保全医学的活動」  
鉛中毒や衝突事故、感電などで被害にあっている猛禽類の現状と救護について

## ○野村 亮氏



・ NPO 法人「自然環境アカデミー」の専務理事と事務局長を兼任。東京都鳥獣保護員、山階鳥類研究所標識調査員でもあり東京都における傷病鳥救護システムの構築に取り組んでいる。

### ・ 講演内容

「自然環境アカデミーの傷病鳥救護活動」

東京都における鳥類の救護の現状、救護体制、違法飼育などについて

## ○渡辺 優子氏



・ NPO 法人「野生動物救護の会」理事長。神奈川県自然環境保全センターの野生動物救護ボランティア一期生。

### ・ 講演内容

「私たちになにができるか」

神奈川県における傷病鳥獣救護の現状と、野生動物救護の会の活動を紹介

一般市民の救護活動への関わり方について

ワークショップに参加した高橋さんの感想です。

講演の後は各講師陣も加わりグループに分かれ、討論会形式のワークショップが行われました。野生動物救護と一口に言っても、実際に動物たちと接していく方法や、普及啓発を通じてこれからの被害を防ごうとする方法など様々で、参加者たちはこれから自分が野生動物とどのように関わっていききたいかなどを真剣に話し合っていました。

今回のワークショップはタイトル通り、学生の参加者がとても多く、大学や学部、学科の違いなどを全く気にすることなく交流を深めることが出来ました。また、今まで救護に実際に関わったことがないため野生動物に直接関わりたいという意見、現在関わっている人からはこれからは普及啓発などの異なる方向にも進みたいという意見もありました。

私はこれからも直接的にも間接的にも様々なことから野生動物に関わっていきたいと思っているので、具体例を聞いてとても嬉しかったです。また、食品系の学科に通う学生さんからは外来種の食品化をしてみたいなど、私が思ってもいない発想を聞いてとても充実したワークショップとなりました。



交流の様子



雉鳩

Eastern (Oriental) turtle dove

*Streptopelia orientalis*,

ハト目ハト科キジバト属

毎回のこのコーナーではセンターでの注目度の低い動物たち(泣)をピックアップしているわけですが、今回もそんな中からキジバトを選出しました。

みなさんにとってハトと言えばどんなイメージでしょうか？平和の象徴としての良いイメージも駅周辺にいる害鳥のイメージもあるでしょうか？でもちょっと待ってください。そのハトはキジバトではないんです。



### キジバトってどんな鳥？

キジバトはハトの仲間で、駅の周りにたくさんいるドバトの次にみなさんがよく見かけるハトだと思います。街のど真ん中ではあまり見かけませんが、ほんの少し駅を離ればそこらじゅうで見られ、また、明るい森林にも生息しています。

キジバトはその名の通りキジのような模様が特徴的です。目(光彩)は赤っぽく、頭からお腹にかけては赤褐色、翼は赤褐色と灰色の鱗模様、尾羽は灰色です。

キジバトの鳴き声と言えばデデッポッポーなどと書かれていますが、私に言わせてみればデーデポッポポーと聞こえます。たまにデーデポッポポーデーデポ...で歌うのを止めるやつもいます。

食性は基本的に雑食性で果実や種子、昆虫など何でも食べますが、どちらかという種子の方が好みみたいです。保全センターのフライングケージ(F02)で保護されているキジバトの中には、ムクドリやヒヨドリの餌がお気に入りです。ハト豆よりもそれらを食べってしまうやつもいます。

### キジバトのさし餌

キジバトは卵を1年を通して産み、1回に産まれてくる卵は通常2個です。そして生まれてくるヒナはもうすでに羽が生えていますが、その羽には黄色いポヨっとした毛がたくさん混ざっています。

ハトはそ嚢(食べ物を一時的に保管しておく器官)から分泌物(ピジョンミルク)を出します。このピジョンミルクを親が口を開けてヒナが親の口に自分の嘴をつっこむようにしてあげます。そのため、ハトのヒナにはスズメやツバメのヒナと違って本能的に口を開けようとするのがなく、お腹が減るとピ

一ピー鳴きながら人の手をつつくことしか  
しません。



また、ヒナの嘴はごっつく見えるくせにと  
ても柔らかいため、無理やり開けようとすると  
嘴が曲がってしまうことがあるので注意  
しなければいけません。しかも、キジバトは  
ドバトと違って羽が抜けやすいので暴れら  
れるとやっかい…。そんなこんなでキジバト  
に餌をあげるのには苦労がつきものですが、  
きっとこれができるようになったらキジバ  
トマスターになれますね！

### ネコ・衝突・交通事故…

キジバトは街中でもよく見られる鳥なだ  
けあって、保護件数もかなり多いです。その  
保護原因のほとんどがネコによる傷、建物へ  
の衝突、そして交通事故です。



ネコによる傷は見た目はそれほど大きく  
ないために大丈夫だろうと思われがちです

が、鋭い歯や爪が皮膚や筋肉の奥にまで入っ  
てしまい、致命傷となることがあります。こ  
このネコ傷は他の保護原因よりも死亡率が高  
いのです。

衝突や交通事故によるものは、頭や翼にダ  
メージを受けるものが多いです。翼を骨折し  
てしまったり、断翼して一生フライングケー  
ジでの生活を余儀なくされているものもい  
ます。

このように、キジバトというのは私たちの  
身近で暮らしているからこそ被害を受けや  
すい鳥でもあります。もちろんそういった鳥  
だけが被害を受けるわけではありませんが、  
ネコの飼い方や衝突防止用ステッカー等、私  
たちに改善できることがきっとあると思  
います。

### 初センター卒業生に恋？！

前のコーナーで保護原因について触れま  
したが、保全センターからは今までに何羽も  
のキジバトが放野されていったのも一つの  
事実であり、とても嬉しいことです！

そんなキジバトの中にいつ放野されたキ  
ジバトたちだけ分かりませんが、FC2を中心と  
したセンターの周りをいつもウロウロして  
いるものがいます。その近くで落ち葉をガサ  
ツガサツとひっかき回しているキジバトを  
見つけたら、それはもしかしたら卒業生かも  
しれません。もう飛ぶことには支障はなく、  
あの意外とうるさい羽音を立てながら羽ば  
たいていく光景を目にすることもできます。  
昔の家が懐かしいのかな？

そんな卒業生に恋心が芽生えたらしく、つ  
いに野外で仲良くなったキジバトとのカッ  
プルが誕生しました☆卵を産んだかは分り  
ませんが、これからも仲睦まじく外の世界を  
堪能してほしいですね～。

# ムクドリ日記

これは昨年の夏に本当に起こった、  
人々に生命の大切さを訴えかけるお話です



## 2008年6月9日

相模川の河原でゴミ拾いをしていた小学生が不自然なポリ袋を発見。持ち上げてみると中からピーピーという鳴き声がかすかに…。

慌てて袋の中をのぞいてみると生後4～5日のムクドリのヒナ5羽が捨てられていました。引率の女性が相模原警察署に通報し、保護されました。

## 6月10日

ムクドリのヒナ5羽は相模原警察署からセンターに運び込まれました。当初ぐったりしていたムクドリたちもセンターの職員さんやボランティアさんたちに守られすくすくと育っていきました。(6月11日 朝日新聞に掲載)

野生動物救護のボランティアとしてその日センターで活動していたボランティア歴1年目の榎本さんは「受付には一切関わっていないため状況は分からなかったけれど、その日からボランティアに来るとさし餌をすることが多くなりました。自分から口を開けてよく食べてくれて、誤嚥が少なく安心してさし餌ができました」と言っていました。

そんな榎本さんに保全センターの獣医さんからこのムクドリのヒナたちを育ててみないかと打診があり、それが短期飼育預かりをするきっかけとなったそうです。

## 6月23日

榎本さんはヒナたちを自宅で預かり短期飼育をすることを決意しました。

「持って帰ったときはまだ飛べなくて、尾羽もまだ出でない状態でした。しかも5羽中1羽は非常に消極的で弱々しかったです。他の4羽は元気に止まり木まで行って止まったりパタパタしていたのに、この1羽だけは隅でずっとじっとして、他のヒナに踏まれたり…。でも手に乗せて飛ばしたり筋力をつける練習を2日程行くと、自信がついたのか飛ぶようになり、他のヒナたちとも一緒にいられるようになりました。

その1羽の弱々しいヒナは当初から放野まで生き延びられないかもしれないと獣医さんから言われていました。でも口に餌を入れるたびに毎回顔をピョコッと上げるのがかわいかったです。ずっと飼えば慣れたかもしれないなんてつい思っていました。」

## 7月1日

榎本さんが短期で預かってくださった5羽のムクドリのヒナたちは1週間後センターに帰ってきました。センターに初めて来た日からは見違えるようになり、飼育室の中を元気に飛び回るほどになっていました。「飼育のコツが掴めてきたころセンターに戻したけど、環境が許せば自分で飛べるところまで面倒見てみたかったです。」と榎本さん。

■+++++

8月に入ると、飼育室では狭くなり、より広いフライングケージに移り、本格的に飛行訓練を開始しました。しかし、残念ながら一番体の弱かったムクドリは、その飛行訓練中に命を落としてしまいました…。残りのムクドリたちはボランティアさんたちの力作のフライングケージ“鳥カフェ”で、飛行訓練を積み、立派なに成長しました。

■+++++

8月31日

ついに放野の日を迎えました。ヒナを拾ってくれた小学生たちの手でヒナを放野して欲しいという思いから、保護してくれた小学生たちと短期飼育をくださった榎本さんを含めたボランティアさんたちとで相模川沿いの森で放野されることになりました。小学生たちには5羽中1羽が命を落としたことを理解し、放野へと向かいました。

また、ムクドリ4羽の他に、同時期に保護された別

のムクドリ1羽と、別のボランティアさんが短期飼育をしてくださっていたオナガ2羽も共に放野されました。

放野する手の平にぬくもりを残してムクドリたちは全然バラバラの方向に飛んでいき、人の近くでずっと鳴いているようなヒナはいませんでした。なんだかあっさり……。しかし小学生たちに“命の大切さ、小さいもの、弱いものへのやさしさ”を身をもって体験して欲しい……。そんな私たちの願いが実を結んだ一瞬でした。  
(9月1日 朝日新聞に掲載)



←鳥カフェ



小学生とご対面→

### ☆このムクドリのヒナたちを短期で預かってくださった榎本さんをご紹介します☆

#### Q1. ボランティアを始めたきっかけは？

元々、動物が好きで興味があったので、センターの広報誌でのボランティアの募集を見つけ応募した。

#### Q2. 救護の会に入ってみてどうだった？

救護の会の方々は皆さんとても熱心で、動物が好きな人だけではなく日曜大工が得意な人などいろいろな形で協力しあっていける活発な団体だと思う。

#### Q3. 預かって大変だったことは？

はじめての短期飼育で一気に5羽来たことと、1日に5回、1回30分以上かかり、2時間おきにさし餌をしなければならないことや家事との両立が大変だった。でもかわいいから許せちゃう☆夜は寝てくれたのでよかった。できればムクドリたちに1部屋借りたりして飛ぶ練習をさせてあげたかった。

#### Q4. 預かってみて何か変わった？

家に来る野鳥に興味をもつようになった。最初ひまわりの種をあげたらシジュウカラが来るようになった。その後冗談半分で巣箱をかけてみたらシジュウカラが巣作りした。7個の卵産んで、7羽全員無事に巣立ちまで行ってよかった。

#### Q5. また何か預かってみたい？

ムクドリはまた預かってみたいと思うし、機会があれば他の鳥も挑戦したい。今度はもう少し長い期間できるかもしれないので、赤裸のヒナなども育ててみたい。

#### Q6. これからどんなことしてみたい？

出来る範囲で協力していきたい。  
他のボランティア団体との交流・連携が必要になっていくと思うし、他団体と連携することでもっと色々な分野から協力していきたい。

～投稿記事～

## 秦野総合高校での環境講座にご協力いただき ありがとうございました！

皆さん、初めまして。私は岩淵哲朗と言いまして、会員ではなく秦野市役所の環境保全課に勤務している行政職員です。

野生動物救護の会の皆さんには、小学校での環境教育事業「はだのエコスクール」を昨年9月に実施したときには4名、11月の市民の日（秦野市の大きなお祭りです）には1名、そして今回は6名もお越しいただくなど昨年から大変お世話になっており、今回、罪滅ぼしに（？）寄稿させていただきました。

さて、3月16日に秦野総合高校で行った環境講座の報告をしたいと思います。

2月上旬に高校側から環境に関する地元企業や市役所の取り組みのほか、一人ひとりの温暖化防止アクションを話して欲しいという打診があり快諾したものの、450人を前にして1時間15分を一人で話すと途中で寝る生徒が出てくると思い、理事長に協力の相談をしたところ、「いいわよ」とうれしい一言。

でも、エデュケーションボードとして特別参加する鳥たち（ノスリ、コミミズク）が単なる見せ物に終わらぬよう、全体の流れを工夫するのが腕の見せ所と思い、様々な仕掛けを考えて当日に望みました。

まず、私が来年秦野市を会場に行われる全国植樹祭ののぼり旗を身にまとい自前の電動アシスト自転車で登場して笑いを誘おうとしましたが、あえなく撃沈し幸先の悪いスタートとなりました。しかし、野生動物救護の会の皆さんに登場していただくまでは持ちこたえねばと頑張り、後半に入ったところでバトンタッチしたところ、それまでは寝ていた生徒たちがしっかり

と前を向き、会員の大学生による説明や保護された傷病鳥獣の写真を食い入るように見始めたではありませんか。

「協力をお願いしまーす。」と言っておきながら、どちらが生徒の関心を惹きつけていられるかをひそかに勝負していましたが、私の完敗に終わりました。

全体的な構成を振り返ってみると、環境問題の一般論だけを聞くのはとても退屈であったり、野生動物だけを取り上げると拒否反応を起こす人も出てきたりするので、このようなコラボはとても良い試みだと感じました。一方で、伝える対象者の年齢や背景などにより、知識を深めてもらうのか、五感を養ってもらうのかなどプログラムの核となる部分を工夫した構成にしていかなくてはと反省もしました。

ところで、本件は神奈川新聞とタウンニュースにも掲載され（秦野版ですが）、皆さんの活動がPRできたのではないのでしょうか。

何はともあれ、今回一番得をしたのは私でしょう。小学校への出前授業は慣れています、高校生が相手ということで、事前準備として大学教授に相談したり、高校へも数回打合せに行ったりと大変でしたが、とても良い経験になりました。また、懲りずに協力依頼しますので、よろしくをお願いします！



# HELLO!! VOLUNTEER☆

このコーナーでは、ボランティアさんの紹介をしていきます☆

雨の日も、風の日も、どんなに寒くても…必ずと言っていいほど、毎週1～2日来て下さる幸太郎さんの紹介です。幸太郎さんは、とっても頼りになるボランティアさんです。

少し戸惑いながらも、丁寧にインタビューに答えて下さいました！！

## ☆幸太郎さん☆

ボランティア歴：2年

主に来ている曜日：水曜日

預かっている動物：シジュウカラ



### ボランティア活動について

#### Q1. ボランティアを始めたきっかけは？

元々、丹沢自然保護協会でも活動していて、自然保護に興味があり、県のたよりを見てボランティア講習を受けてみた。

#### Q2. やっていて良かったことは？

知らなかった鳥のことを知ることになったり、今まで知らなかったことに触れる機会に恵まれ、新しい世界に出会えたこと。

#### Q3. 大変だったことは？

まだ慣れていない時のさし餌。食べてくれないんじゃなくて食べさせられなかった。あと、台風の後におオミズナギドリがたくさん保護されて来た時。そのことを知らずに行ったから、驚いた！また、台風が生物に影響を与えていることにも驚いた！！

#### Q4. 印象に残っていることは？

放野のこと。人間の方は未練があるけど、動物はサーっと行っちゃう（笑）

### 預かっている動物について

#### Q1. 預かっている動物は？

過去にメジロを短期で。  
今はシジュウカラを短期で預かっています。

#### Q2. 大変なことは何ですか？

野生に帰すものなので、人間に慣れさせないよう頑張っている。可愛いから大変！！  
家族の理解も必要。  
あと、餌の種類や量が最初は難しかった。

#### Q3. これから他にも預かりたい？

機会があれば、色々やりたい！

### 幸太郎さん家のシジュウカラ★データ★

受付日：2008年7月12日

保護原因：巣立ち雛が巣から落ちた

状態：左右風切羽数枚、尾羽全てが抜けている

預かった日：2008年12月12日

羽が生えそろうまでの短期預かり



# らんちゃん便り

前回でらんちゃん便りは終わりのはずでした。しかし、どうしても皆さんにお知らせしなければならないことがあるため、もう1回だけ、らんちゃん便りをお届けします。

2008年11月30日、私のもとに、衝撃的なメールが届きました。そのメールは「皆さまに愛され、当センターのアイドル的存在であったタヌキのらんちゃんが、今朝、死亡しました。」というものでした。

その日の朝9:00ごろ、保全センターの獣医さんが出勤し、らんちゃんの様子を見た時は、いつもと変わった様子はありませんでした。ごはんをいつものようにきちんと食べた後、いつものように寝ていたのです。

10:30ごろ、らんちゃんがいる部屋の掃除をしていた学生ボランティアさんが最初にらんちゃんが動かないことに気付きました。

あわてて触ってみるとまだ温かく、表情も穏やかで、まさに眠っているようでした。しかし、その眼は既に輝きを失っており、少しずつ、らんちゃんは冷たくなっていきました。

らんちゃんが保護されてきた当時にもうすでに大人だったので、7年半以上生きたこととなります。野生のタヌキの寿命は約5年とも言われているので、らんちゃんは長生きだったかもしれないですね。年とともに食が細くなったとは言え食欲もあり、前日まで日向ぼっこで気持ちよさそうに足を動かしたり、変わった様子が見られなかったことから、老衰であると考え

られます。

らんちゃんは、その生涯を終えましたが、これとは変わりません。いつでも私たちの活動や、保護されてきた動物たちを見守ってくれている、そんな気がしています。たくさんの人に愛され、たくさんの人に野生動物救護の大切さ、自然環境保全の大切さを伝えてきたらんちゃん、皆さんも、時々はらんちゃんみたいなタヌキがいたことを思い出してみてください。

以下は当日、その場にいた学生さんたちが、らんちゃんを身体測定した結果です。

受付NO. 020216

保護年月日：2002年5月15日

転帰年月日：2008年11月30日

全長：69.4cm

尾長：14cm

頭胴長：54.4cm

後足長(ツメナシ)：11.3cm

(ツメアリ)：11.8cm

肩高(ツメナシ)：28.0cm

(ツメアリ)：27.3cm

耳前面：47.5mm

耳後面：58.25mm

耳幅：30.75mm

首周囲(上)：20.7cm

(下)：23.3cm

胸囲：37.7cm

胴囲：35.8cm

腰囲：31.3cm

体重：2.7kg

らんちゃんの訃報を知ったボランティアさんからたくさんの追悼メールが寄せられました。  
ホームページでも紹介されていますが、そこに寄せられた追悼メールの一部をご紹介します。

今日、らんちゃんが亡くなったお知らせのメールをみてびっくりしました。

11月24日、センターに久しぶりに伺ったのですが、いつものようにらんちゃんは外に居て、鳴いていたので、様子を見に行くと、一生懸命に上半身を起こしていました。前足をバタバタと懸命にかいて、私には起き上がろうとしているように見えました。その様子を見ていたので、本当に今日のお知らせは驚きました。

まだらんちゃんに会って数ヶ月ですが、残念です。

～．～．～．～．～．～．

センターにまだ数回しか行っていない私ですららんちゃんにとっても愛着を感じていましたから長く通っている方々や関係者の方々のお気持ちを思うとさらに残念に思います。

私がタヌキに触れたのはらんちゃんがはじめてでした。あっちの世界でらんちゃんが元気に走っていますように。

らんちゃんへの感謝と共に、ご冥福をお祈りいたします。

らんちゃんの訃報、あまりにも突然で気持ち天国では、思いっきり走り回って下さいね…

紙面の都合上掲載できませんでしたが、他にもたくさんの方々から追悼メールをいただきました。ありがとうございます。

を表現する適切な言葉も見つかりません。本当に野生動物は最期まで弱みをみせず、静かに逝くのですね…

今は 安らかに、ただ安らかに この世での疲れを癒して欲しいと願うばかりです。

らんちゃんが私たち人間に教えてくれたこと、気づかせてくれたこと、子供も大人も きっと忘れないでしょう。らんちゃんは、関わった人

たちの心の中に永遠に生き続けることでしょう。

～．～．～．～．～．～．

最初の数年は、人に対するおびえがはげしかった記憶があります。何度も安楽死させるべきではないか、と話題にあがり、それでも、保全センターの職員さんたちとボランティアさんのケアがあったからこそ、決して良くは

ない飼育環境で長く生きて来られたのでしょうね。

らんちゃんが保護された年に夏休みボランティアに来ていてランちゃんと呼び出した頃の中学生在が成人する年かと思うと歳月を感じてしまいます。



# インフォメーション

## イベント

### 東京バードフェスティバル2009

- 毎年恒例！東京バードフェスティバル2009に出展します。
- ▽日時 5月23日(土)、24日(日)
- ▽場所 東京港野鳥公園(東京都大田区)

### パネル展示

- 大好評のよこはま動物園ズーラシアに続き「海ゴミ GO ME!」の展示を行います。
- ▽日時 3月24日(火)～4月19日(日)
- ▽場所 野毛山動物園パーゴラ内(横浜市西区)

### スキルアップ勉強会

- 毎月1回行います。
- ▽日時 4月～6月
- ▽場所 自然環境保全センター
- ※詳細はホームページをご覧ください。

### 平成21年度

#### 野生動物救護ボランティア講習会

- 今年もやります！
- ▽日時 5月16日(土)17日(日)
- ▽場所 神奈川県自然環境保全センター
- ▽募集 30名(多数の場合は抽選)
- ※詳しくは神奈川県環境保全センター又は当会のホームページをご覧ください

この他にも講演会、研修会、交流会などいろいろ予定しています！  
詳細は決まり次第 HP に掲載します。

## ☆☆会員へのお誘い☆☆

当会は、ボランティアスタッフの協力と設営趣旨にご賛同いただきました皆様方の寄付によって運営されております。

私たちの活動を支えてくださる賛助会員も同時に募集しています。

#### ★ボランティア会員(年会費2,000円)

一般会員:どなたでもご参加いただけます

救護会員:ボランティア講習会を受講し、野生動物救護ボランティアとして登録された方

#### ★学生会員:学生の方(年会費1,000円) <区分は上記と同じ>

#### ★賛助会員:当会の活動にご賛同いただき寄付をしていただいた方

年会費:法人一口5,000円 個人一口3,000円 一口以上

振込先 ゆうちょ銀行振り替え口座 : 00270-0-47040

名義 : 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

発行月: 2009年4月 発行: 特定非営利活動法人 野生動物救護の会 電話: 0463-75-1830

〒259-1306 神奈川県秦野市戸川1086番地の4 ホームページ: <http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>

編集者 表紙絵: 加藤わか葉 今日のRUNNER: 小松美絵 Mプロジェクト: 渡辺優子 海ゴミ: 遊佐弘司

シンポジウム: 渡辺みずほ ワークショップ、ランナー通りの住人たち: 高橋恵 ムクドリ日記: 塩崎麻由

HELLO!! VOLUNTEERS☆: 本田由美 らんちゃん便り: 太向咲恵 (ゲスト) 投稿記事: 岩淵哲郎

Special thanks 三輪さん、佐藤さん、平沼さん他、発行にご協力いただいた方々ありがとうございました☆